

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2576		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民や地域の他施設とも交流を図り連携を深めている。また、いろいろな作品などを作り季節感のある空間作り力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に民家や畑のある静かな環境に位置している。利用者は散歩や買い物へ出かけたり、近隣の畑へ野菜や果物をもらいに行ったりして交流を深めている。事業所では、温度や湿度、採光等の室内環境に配慮している。うがいや手洗いの徹底と予防注射等の予防対策にも力を注ぐなどして、健康で快適な生活を送ることができるよう支援している。また、職員は、6か月ごとに目標を掲げたり、振り返りを行ったりして、良かったことや疑問点、気づき等を話しあい次のステップに繋げている。利用者一人ひとりの力量に応じて、大根や柿の皮むき、食事の後片づけなどの役割を担っており、生き甲斐づくりにもなっている。同一法人の運営する医療機関や近隣のかかりつけ医と連携を図って24時間の対応ができる体制を構築しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングの時に理念・倫理規定を読んで確認し、業務に取り組んでいる。職員トイレにも掲示して確認できるようにしている。	毎朝のミーティング時に全職員で理念を唱和している。理念に基づく具体的な支援のあり方について話しあい、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段は理容店の利用や散歩等で地域の方と関係を深め、年に1回地域交流会と称し食事会を行っている。	日ごろから、近隣を散歩したり、地域の店舗へ買い物や散髪に出かけたりしている。地域住民から果物や野菜の差し入れがあり、利用者とともに収穫に出かけることもある。年1回は地域の方を招いて交流会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学生の体験学習を受け入れたり、地域交流会を通して認知症への理解や啓蒙に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域住民・行政・他施設の方に参加をお願いして当ホームの現状を知ってもらい、意見をもらっている。今年より消防署の方にも参加してもらっている。	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの実際、評価への取り組み等について報告や意見交換を行っている。参加者から出された意見や情報は、事業所内で検討し、サービスの質の向上に繋げている。消防署員の出席も得ており、防災への取り組みを強化している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が代表し、市担当窓口にて事業所の現状を報告し指導を仰いでいる。職員も市役所に出掛けたときには同様に指導を受けている。	管理者と職員は、機会あるごとに市担当窓口を訪問し、事業所の現状やサービスの実際等を報告している。また、困難事例に関する相談やアドバイスをもらえるなどして、つねに連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。緊急やむをえない場合には管理者・職員・ご家族をまじえて検討し、身体拘束を最小限に留めるように工夫している。	身体拘束の内容と弊害について、マニュアルや研修会で理解を深めて共通認識を図っている。職員は、日ごろの実践のなかで気づいたことを相互に話しあって見守りや連携を心がけ、拘束のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を個々で再確認し、日々の業務のなかで不適切ケアがないか注意しながら取り組んでいる。学習会への参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、成年後見制度利用者の方が入居されその際に職員一同が学習し、理解するように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時に重要事項や事業所の取り組みを説明し同意を得ている。不明な点があればそのつど説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に現状を報告し、意見・要望をできるだけ実現できるように努めている。	職員は、日ごろの生活のなかで利用者に寄りそって接し、要望や意見の把握に努めている。家族の来訪時には、利用者の近況を伝えたり、積極的に話しかけたりして、意見や要望を表出しやすいよう配慮している。出された意見や要望は、職員会議や運営推進会議の際に話しあい、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・ホーム長は現場職員からの意見・提案をその都度聞き取り、即、業務に反映できるようにしている。年2回運営計画を立てて回覧し、共有するようにしている。	日ごろから、代表者や管理者は、職員と話す機会をもつよう心がけている。積極的に意見や提案等を聞くよう努めている。また、年2回の運営会議では、職員一人ひとりが意見や目標、業務内容に対する提案、見直し等を提出しており、出された意見等は運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ホーム長は個々の職員の長所を把握し、それに合った業務に行わせることで、職員が向上心を持って取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部・外部研修に参加する機会を設け、職員の能力UPに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の交換実習を通して交流を深めている。これからも機会があれば、積極的に実施していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・体験入居をして頂き、ご本人の不安を少しでも取り除き、本入居してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の入居に対する不安等を聞き入れ、ニーズを見出し実践することで関係づくりに生かしている。電話をしてご本人の様子を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族それぞれの今、必要としていることを把握し、各職員に周知して話し合うことで、適切なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者の方々を自分の家族のような存在としてとらえ、長い経験のなかからさまざまなことを教えてもらえる関係を、日々築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が協力し合っご本人をサポートしていくという思いを持ち、ご本人・ご家族・職員が互いに信頼できる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人・知人の面会を快く受け入れ、今までの関係が途切れないように配慮している。	事業所では利用者の友人や知人の来訪が多くある。来訪者が訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。外食や買い物、墓参り、理・美容院の利用を支援するなどして、馴染みの人や場所との関係が途切ることがないよう、家族と相談し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握・理解して対応を工夫することで入居者間のトラブルを防ぎ、一人一人が楽しく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご本人・ご家族と職員との関係を大切に、相談があれば対応したりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のご本人の生活についての要望を聞きとり、意思疎通が困難な方に対しては、ご本人が何を希望しているのか、表情や行動等より見極め対応している。	日ごろから、職員は、利用者との関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得たり、些細な表情や行動等から気持ちを把握したりして本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシー保護に対して厳重に留意しながら生活歴・生活環境・家族構成等の情報をご家族や前施設等から収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれに生活リズムが違うことを前提として、一人ひとりの現状をトータルに把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回カンファレンスを行い、ご本人・ご家族の意見が反映された介護計画を作成できるよう努めている。	利用者や家族、関係者等から意見や要望を聞いている。全職員で意見交換やアセスメント、カンファレンスを行っている。また、利用者主体の暮らしを反映した介護計画となるよう、家族の要望や心身状態の変化に応じてそのつど見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護、受診、カンファレンス等の各記録の内容や他部署からの情報を元に会議し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活・共同生活に支障がない限り、既成概念にとらわれることなく柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・警察等の公共機関への働きかけや地域の商店を利用することで、入居者様のことを知って頂き、地域の一員として安心した生活ができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談して通院介助を行ったり、家族とともに同行して、日ごろの体調や様子等を医師へ伝達している。体調に変化が生じた際には往診にも対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の協力医療機関に各入居者様の状態を把握している担当看護師がおり、いつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から医師・看護師に相談・連絡して情報を共有しており、速やかな入退院に対応できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望があれば、ターミナルケアや訪問看護が導入できる体制をとっている。(重度化対応や終末期対応についての希望を、入居時と対応検討時期に確認している。)	入居時の段階で、本人や家族へ重度化した場合や終末期のあり方に関する意思確認を行っている。身体状況の変化に伴い、段階的に本人や家族、医師、職員間で話しあっている。関係機関で連携を図って、安心して納得した終末期を迎えることができるよう体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会・AED講習会・消防署主催の緊急対応勉強会に参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の設置場所や使用方法・災害時の緊急連絡方法等の把握を徹底している。防災訓練を行い、近隣住民にも協力を依頼している。(自家発電設置、食料・飲料・オムツ等の物品を備蓄)	年2回、消防署の協力を得たうえで、昼夜を想定した訓練を実施している。また、防災マニュアルを作成したり、地域の防災訓練へ参加したりして、近隣住民との協力体制の構築にも努めている。非常時に備え、自家発電装置や災害時の物品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々のプライバシーやプライドを損なわないように、職員間で確認し対応に務めている。	利用者のプライバシーの確保や尊厳について、全職員で研修会やミーティングなどの機会に話しあい、周知徹底を図っている。日ごろの利用者との関わりの中で気づいたことを職員間で確認しあい、誇りやプライバシーを損なうことのない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで入居者様が自己決定できる機会を多くつくり、働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を最優先することなく、入居者様それぞれのペースを尊重して希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪髪等、ご本人の好みを尊重しその人らしい姿で生活できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器洗い等を入居者様と一緒にしている。時には入居者様よりアドバイスを受けながら楽しく食事ができるようにしている。	同一法人の運営する他サービス事業所で調理したものを事業所に運び込んでいるが、朝食の味噌汁やご飯は事業所でつくっている。利用者が育てたミニトマトやゴーヤ、地域住民から頂いた旬の野菜や果物等を食材として活用することもある。また、誕生会等の行事や利用者から希望が出されたときには、献立を変更して利用者とともに調理することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェック表記入で確認を行い、好き嫌いがあれば代替品や補助食品を利用し栄養摂取ができるようにしている。特に、夏季には脱水に十分注意し、水分補給に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自立の方はご本人で、援助が必要な方は職員が行っている。口腔内や義歯に異常があれば歯科受診し指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導および声かけをしている。本人のサインを見逃さないように注意し対応している。その人の状態によってポータブルトイレを利用したり希望によりトイレ誘導している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を活用し、声かけやトイレ誘導を行っている。なるべくトイレで気持ちよく排泄することができるよう支援している。夜間も定期的な声かけを行ったり、本人の状態に応じてポータブルトイレを活用したりして、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日に排便チェックを行っている。水分・繊維質の摂取を勧めたりして自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴に対応できない分、ご本人の希望があれば毎日の入浴にも対応している。身体状態によっては足浴や清拭も行っている。	利用者の希望により、毎日でも入浴することのできる体制を構築している。入浴を拒む利用者には、曜日や時間を変えたり、声かけを工夫したりして対応している。身体状況に応じ、足浴や清拭の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬剤の使用は最終手段として、日中の活動を増やしたりして自然で良質な睡眠ができるようにしている。また、シーツ交換・布団干しをこまめに行い快適に睡眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個々のカルテにファイルし、職員はいつでも確認できるようにしている。誤薬防止のため、顔写真をケースに入れて薬を渡すときに名前を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人がやりたいこと・得意なことに取り組めるよう援助し、役割を持って生活できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人・ご家族からの要望があれば、いつでも外出できるよう支援を行い、また、ご家族との外出が少ない方には職員とともに散歩や買い物などをしてもらっている。	本人や家族と相談を行い、希望に応じた外出の支援に努めている。歩行が困難な場合も、職員が車椅子を押してともに買い物等へ出かけている。また、家族の協力を得て、遠方に季節の花見等へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホーム預かりを原則としているが、希望によりご本人に少額持ってもらっている。その方は買い物のときにご自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望により、いつでも電話をかけたり、手紙を出したりできるよう支援している。携帯電話を持たれることも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内のあらゆる空間の環境において、入居者様のニーズに合うように支援しており、食事に旬の食材を使用している。また、鈴虫を飼育したり、花を植えたりして季節を感じてもらおうよう支援している。	事業所内の音や明るさ、温度、湿度等に配慮し、居心地良く過ごすことのできる環境を整備している。居間の窓の外に利用者と職員が作った干し柿を吊るしたり、四季の壁面装飾を施したりして、家庭的で安心感のある空間づくりを行っている。また、鈴虫や金魚を飼育し、季節感を味わってもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が思い思いの居場所で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用されていた家具等を持ってきてもらったり、写真を置いたりしてご自分の家のように居心地よく過ごせるよう支援している。	本人や家族と相談し、居室に使い慣れた家具や仏壇、家族の写真等を持ち込んでもらっている。自宅と同じように居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	個々の「できる」「わかる」を尊重し活かすことで、入居者様同士で助け合いながら生活できるよう支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆様が、安全で安心した生活ができるよう職員間で話し合い、理念に沿ったケアができるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の理容室や歯科・コンビニなどを利用することで交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、入居者の皆様・ご家族・地域の方々に参加する地域交流食事会を開催し、地域の人に認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民・近隣施設や行政の職員の方々に参加してもらい、ホームでの取り組みの報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や職員が担当窓口を訪問し、事業所の実情や取り組みを伝えるなどして交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月より、夜勤職員が各ユニット1名配置となり、鍵をかけないケアをより深めることが出来た。身体拘束はしない事としているが、生命に危険が及ぶ場合のみご家族の承諾を得て実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、院外の勉強会に積極的に参加して他の職員にも周知し、虐待やそれにつながる不適切ケアの防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度利用者はおられない。以前に対象となる入居者がおり、その際には成年後見制度についての勉強会を行い、学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約改定や解約時には、書類に沿って十分な説明を行っている。また、不明な点はその都度説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に、ご本人の状態や普段の様子をお話しし、その中から意見・要望などをお聞きしてサービスの向上努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は運営計画に基づき、個人面談を実施し、職員の言葉に耳を傾け、理解と協力を得ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は、現場職員の実情を把握して、仕事に対するやりがいや楽しみを見出すことが出来るよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は、各職員の特性・力量を把握し、それぞれに合った育成方法を考え実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会などは行えていないが、出来るよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査に加え、入居時に具体的な生活状況や要望を聞き取り、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族の不安やご意向をお聞きし、できるだけ沿えるよう細かな聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族とコミュニケーションを密にし、「その時」必要な精神的・身体的ケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とともに料理やおやつづくりを行い、「おばあちゃんの知恵袋」を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族に生活状況や思いを伝え、ともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や理美容院など、なじみの関係を大切にし、ご家族の協力も得て交流が保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様どうしの関係を把握し、9人が仲良く支え合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人やご家族との関係を断ち切らず、職員が会いに行き近況報告をしていることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から話を聞く時間をこまめにつくり、希望や意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方については、行動や表情よりその思いを汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活を大事にしながらも、自立に向けての支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態に合わせてADLの向上が出来るよう、入居者様の細かな観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状況やご家族の意向に沿って、現状に即したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況記録表・介護カルテなどの記録をもとに、職員間で話し合っって情報を共有し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の諸事情に合わせて通院介助やリハビリ・デイ参加の支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	藍	藍
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安心・安全な生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、かかりつけ医による医療がすぐに受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携に基づいて入居者の情報交換を密にし、医療面でのサポートをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ご本人やご家族が安心できるように、医療機関との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族への状況報告を密に行い、重度化した場合やターミナルケアの方針を相談し、できるだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災マニュアルの見直しや防災訓練・勉強会への参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は防災マニュアルを周知しており、近隣の住民にも協力を依頼している。自家発電装置を設置し、停電発生時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねない丁寧でやさしい声かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを表出しやすくし、自己決定できるよう、やさしい環境づくりや働きかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大事にしながらも、メリハリのある生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさに着目し、行きつけの理美容院へ職員が同伴したり、外出時の服装を一緒に考えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、無理強いはせず、嫌いなものでも食べられるように工夫している。その人の力に応じて、準備や片付けを共に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日チェックし、適量、水分補給を行い脱水にならないよう工夫している。 管理栄養士のアドバイスを受けながら、一人ひとりに応じた食形態を工夫し、安全に栄養摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっており、介助が必要な人には職員がついて援助している。 口腔内をチェックし、異常があれば歯科受診して指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を見極め、その力を活かす方向で排泄方法を検討し実行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便チェックを毎日行っており、できるだけ薬剤に頼らずに食事内容や水分摂取の工夫・運動や腹部マッサージ等を実施し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂が良い人や、最後にゆっくり入浴したい人など、それぞれの希望に沿ったかたちでゆったりと楽しく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日の生活の流れを見渡して、夜間の良質な睡眠や日中の休息が自然なかたちで確保できるようにリズムづくりの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬剤の目的・副作用・用法・用量等をファイルしており、職員はこまめに確認して適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の負担にならない範囲で、能力に合った活動が出来るように支援している。茶葉の袋詰めや煮干しの頭とりなどの役割を持ってもらったり、皆で楽しく合唱をするなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や理美容院の利用・コンビニでの買い物などホームの外へ出て活動できるよう支援している。また、季節を感じる事ができる公園などへの外出も行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			藍	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金はホーム預かりとしているが、その人の希望や力量に応じて少額持ってもらったり、買い物の際にご自身で支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。ご本人の希望で携帯電話を持っている人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の皆様が集まる食堂に季節感のある手作りカレンダーを貼ったり、季節の花を活けたりしている。また、落ち着いて生活できるような環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様が集まって楽しく過ごせる食堂とは別に、小さな共有スペースに椅子や机を用意して、好きな時間に1人で過ごすことができるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れた家具やソファなどを持ち込んでもらうなど、好みを活かした居室環境となるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	第2の我が家として、一人ひとりがその力量に応じて安全・安楽に、役割を持ってメリハリのある生活ができるよう工夫している。		